

第22回津市総合教育会議議事録

日時：平成29年5月12日（金）

午後3時開会

場所 教育委員会庁舎4階 教育委員会室

出席者

津市長 前葉泰幸

津市教育委員会 教育長 倉田幸則

委員 庄山昭子

委員 上島均

委員 滝澤多佳子

教育次長 それでは、定刻になりましたので、前葉市長から第22回津市総合教育会議開会のごあいさつをお願いいたします。

市長 では、ただ今より第22回津市総合教育会議を開催いたします。よろしく申し上げます。

教育次長 ありがとうございます。それでは、本日の協議・調整事項でございますが、（1）みさとの丘学園開校後の状況についてと（2）放課後児童クラブの現状と課題についての2点でございます。それでは（1）みさとの丘学園開校後の状況について、に入りたいと思います。

学校教育・人権教育担当理事 失礼いたします。私のほうから、平成29年度みさとの丘学園の状況についてのご説明をさせていただきます。資料に沿ってご説明をさせていただきます。まず、1番の教員の配置でございますが、これにつきましてはそこにありますように校長が1名であること、他につきましては小中学校の教員の配置基準に準じての配置ということになっております。そこには合計37名というふうには書かれておりますが、このかた以外にも資格のある技能員さんが2名、調理員さん4名、それから図書館司書さん1名ということで、総勢40名を超える教職員となっております。特に県からの加配につきましては、昨年度、再編前の美里町内の小中学校の合計加配よりも、今回、みさとの丘学園になったことによってプラス3名、具体的に言いますと県からの加配に

については7名、みさとの丘学園には常勤の者が配置されている状況でございます。それから、この効果でございますが、特にみさとの丘学園、4月開校から特に当初、子どもたちがどうも落ち着かないなど。これはどういう理由かと申しますと、再編前の3小学校というのは学級の人数が1桁であったり、10数名であったりという人数が今回30数名の1学級になったということで、当初落ち着かなかったり、また、教職員のほうも少ない人数を見ていたのが30数名を見るということになって、最初ちょっと戸惑った部分がありまして、落ち着かない部分があったと聞いております。ただ、そういったところを、この加配を使って前期課程、後期課程、関係なくそういった加配の教員を使ってそういった落ち着かない学級に支援に回るということであったり、ちょっと雰囲気が変わって落ち着かない子どもたちには、そこにも書いてありますスクールカウンセラーが配置をされておりますので、そういったところに相談するというので、ここ一月経ちまして随分落ち着いてきたということ聞いております。2番でございます。前期課程と後期課程の授業者の相互乗り入れ状況についてということでございます。今回、前期と後期が一緒になったということで、前期、後期合わせて週に約24時間、前期から後期、あるいは後期から前期へということで、前期の先生が後期に行ったり後期の先生が前期に行ったり、ということをしております。資料にあります、例えば前期課程から後期課程ということで、音楽の先生ですが、本来ですと後期課程に音楽の先生がいて、非常勤の先生で音楽だけを教えるあとは帰っていかれるというふうなことがあったわけですが、今回は小学校、前期課程のほうに音楽の専門の先生がみえまして、常にみえる先生ですけど、その方が後期課程の音楽も教えるということで、常に音楽の先生が学校にはみえるというふうな状況を作り出しているということがございます。あと、英語についても前期課程に英語の免許を持った者がおりますので、そういった者が後期にもお手伝いに行ったりということもしております。また、体育につきましても、体育の専門の教員が後期課程の体育を教えるということをしております。また、逆に後期ですと、数学なんかですと算数を教えに行ったりとか、特に英語ですけども、5、6年生の英語につきましてもは中学校の英語の先生が指導に行くということになっております。また、今回、みさとの丘学園は1年生から4年生までも英語をやっているわけですが、その英語につきましても、前期課程におりますけれども、前期課程で英語の免許を持った者がその1年生から4年生の英語も担当しているということで、すべて1年生から9年生まで英語の免許を持った者が英語を担当しているということになっております。それから、理科についてでございますが、実は本来ですと後期の専門の先生が前期課程についてということですが、それができませんでしたので、今回の場合は昨年度まで中学校にいた理科の先生を前期課程のほうに配置をしておりますので、そ

の前期課程であります理科の専門の教員が3年生から6年生の理科を専門に持っているということで、専門化を図っているということでございます。

あと、あえて今後の課題として言いますと、そこにありますが図工が今回6年生、2時間だけが、中学校の美術の先生が図工に行っているわけですが、もう少し拡大できると今後いいかなということを少し思っているようなところでございます。3番でございます。通学対策でございます。スクールバスの通学対策につきましては、そこにあります対象については旧辰水小学校、旧長野小学校、及び高宮小学校の一部の児童が、中学生につきましても、1人ですが、スクールバスで通学をしているという状況でございます。運行の形態は5台のスクールバスで3ルートは委託、2ルートについては市の直営ということで運行をさせていただいております。安全対策でございますが、そこに書かれておりますように4月5日から4月14日までの登下校時は各バス停及び危険箇所には保護者による見守りを十分していただきました。それから、スクールバスへの教職員の乗車でございますが、これにつきましては4月21日まで教員がずっとバスに乗りまして、安全確保をしてまいりました。2枚目をお願いいたします。続きまして、引き続き地域の方のお力を借りながら見守りをさせていただいているという状況でございます。(2)番でございます。徒歩通学対策でございますが、これにつきましては開校前から旧高宮小学校区の新設の通路を整備したということで、さつき保育園前でございますが新設の通路を整備していただきました。また、馬洗橋の南側の足坂中平尾線の道路拡幅ということで整備していただいております。また、学校周辺の区画線であったりとか横断歩道の塗り直し、それから、徒歩通学で通うところに大きな池がございます。その池に侵入できないようにということで、侵入防止柵の設置もおこなっております。それから、さつき保育園前に坂があるわけですが、冬場は特にスリップが起こる可能性があるということで、およそ150メートル程度でございますがガードパイプ等の設置をさせていただいております。そういった安全対策のなかで徒歩通学、今のところ特に問題なく通学はされていると聞いております。今後の課題ということでいくつか課題をいただいております。まず1つは、旧小学校で見守りを地域ボランティアの方にさせていただいたのですが、今回からスクールバスということでもういいのではないかな、という地域もちょくちょく出ているというようなこともございますが、もう一度、今、その見守り隊についての再編というか、きちんとした組織化について、学校のほうで調整をいただいているところでございます。それから、もう1つはスクールバスのことですが、百五銀行からご寄付もいただいているのですが、その車庫の場所ですが、今は美里庁舎のところに止めさせていただいているんですけども、屋根もないというようなこともあってそんなあたりもどうなのか、というご意見もいただい

ております。それから、スクールバスですけれども、土日とか祝祭日に、地域への貸し出しについてはどうなんだ、というご意見もいただいているところでございます。この件につきましては、当然、考えていくわけですけれども、1つは運転手の確保の問題とか、燃料費のことであったり、何よりも何か事故があったときに、子どものスクールバスということで影響はないかということなどいろんな課題もございますので、いろいろな課題を考えながら前向きには考えていかせていただきたいと考えております。最後でございます。4番の年間計画のカリキュラム等につきましては資料に美里創造学習とか英語科とかにつきまして入れさせていただいておりますので、ご参考ということで見ていただきたいと思います。思うんですけども、実は校長先生の聞き取りであったりとか、昨日もみさとの丘学園のほうに行かせていただきました。その中で一番、今、みさとの丘学園でいいと思うのは子どもたちが非常に優しい雰囲気の中かで成長している。特に後期課程の子どもたちが前期課程の子どもたちといっしょに遊んでいる状況であったりとか、非常にそういった雰囲気がいいなというふうなこと、あるいは、職員室の様子がやはり、1つになったということで、離れていますとそれぞれの小学校、中学校の子どもたちの大変さってなかなか分からないんですけども、それぞれの理解がされてきたと。それぞれお互い理解をしているなということであったり、いろんな苦労とかそういったことがわかるということであったりということで、いろんな話をしながら職員室の先生方の雰囲気も子どもたちの情報交換をしながら、とてもいい雰囲気の中かでしているなということをお聞かせいただいております。私からは以上でございます。

市長 ありがとうございます。みさとの丘学園については、みなさんがそれぞれいろんな理解をしているなかで、4月以降、どんな感じになるんだろうなという想像をしていたことは一人ひとり違うと思いますので、今は現実に動かしてみてもうどうなのかをこの段階で一旦ご報告をしてもらって、私も含めて各委員さんが、感じていることを出しておくところのあとの学校運営をいろいろと考えていく際の1つのポイントになるかなという感じもいたしますので、どうぞ、ご自由にご発言をいただければというふうに思います。誰からでも結構ですが。

上島委員 僕から。

市長 では、上島先生から。

上島委員 結構見させてもらいまして、その前にいろんな職員からも話を聴かせてもらってます。やっぱり始めは、どこの学校もそうなんですけどかなり遅く

までいろんな議論をせざるを得ないという。ただ、聞かせてもらっていて確かに子どもたちにもいい関係ができていますけども、ではどんな子を育てていくかっていうと今後の1つの課題かなと。優しいだけではいけないし、やっぱり9年間いっしょにいるということがどういう効果をもたらすだろうということですけど、そこをきちんとしていかないといけない。それから、小学校の文化と中学校の文化って違うからとよく言われるんですけども、その小中の文化の融合とかそんなことを言っていたらいけないんです。新しい9年間の義務教育学校の文化を作らないといけないという意識がなかったら、なかなか融合というのは、言ったらそれぞれのいいところばかり、つまりはもう、まったく違う学校だという意識を先生方がどう持っていくのか。ただ、すぐにはなかなか難しいなど、だからまず、何年か先を見越してそういう学校にしようとしなかったら、いきなりは先生方の意識は変わらないところで難しいかなというところはあるんですけど。最終的には小学校の文化、中学校の文化っていうのではなくて、小中学校の文化はこうだというものを作ってほしいなというふうに思っています。以上です。

市長 どうぞ、滝澤さん。

滝澤委員 見させていただきまして、非常にいい雰囲気の中かで、また素晴らしい環境の中で授業が進められていて、ここまで来るには担当者、あるいは、事前の教育委員会のみなさん方が非常に細かい検討を積み重ねてこられた結果、今この現状があるということをしみじみと感じた次第でございまして、校長先生からいろんな計画、心配りの状況をお聞きしますと、こと細かく繊細な心遣いのもとで学校が運営されているということを実感いたしました。特に、授業を見させていただいた時にまず、最初は校庭のほうで体育の授業、それから1年生に入ったんですが、1つのその授業のクラスのなかで3名の先生がいらっしゃる。そして、また3年生でも3名の先生がいらっしゃるということですので加配と言いますか、用意周到で、いかに落ち着かせるかということの主眼として。短時間のうちに態勢を整えたいという意志が伝わってきた気がいたしました。ただ、この加配とかこういう支援がなくなったとき、いつまでこの支援が続くのか。それを予定しているのか。支援はいつ通常の形に戻るのかという、その切り替えのところが心配かなと思いました。ただ、短期間で落ち着かせるために非常に周到に実行準備をされているということはひしひしと感じまして、みなさんがいい雰囲気の中かでやっておりますし、子どもたちも後期課程の生徒たちは、小さい前期課程の子がいるからこそ居場所がある子もいると。子どもたちといっしょに遊ぶ子も後期課程の子がいて、私はとてもいい状況だなと思うんです。

ただ、校長先生が心配されていたのは、そういう小さい子としか遊べない後期課程の子がいるのではないかと。その心配をされていまして、後期課程のなかで居場所がないから前期課程の子どもたちと遊んで面倒を見てやって、お兄ちゃんとか尊敬されるような指導者みたいなかたちでそこにいられる、というところがあるということで心配は理解できたんですが、もし中学校だけであつたらその子は居場所がないわけですね。中学校のなかで同学年と同化できずに居場所がない。でも、みさとの丘学園のなかで育つそういう子はより小さい子の中に入って存在感、自己肯定感を育成できるというところが、このみさとの丘学園で育つことによって、ともすれば疎外されがちな子がいっしょに育っていけるというところが非常にいい環境ではないかなというふうに思います。規模のメリットというところもありまして、職員が後期課程、前期課程、融通できると。困ったところへ飛んでいって指導ができるというところは非常に、この規模のメリットを十分に生かしていただいているのではないかなと思いました。

地域との関わりも非常に校長先生は大事にされてみえまして、長野小学校のところへ遠足に行ったり、小学校はなくなりましたがそこは同じ地域だよということでそういう配慮も行き届いておりますので、これからもその地域との関わりも十分認識していただいて、ともすれば、1つの学校になると前に多数の人数がいた学校から来た子どもが勢力が強くて、少数派はちょっと控えめな感じになりがちではないかなと思うんですが、そのへんも多分認識していただいて、上手く時間が経てば融合していくんじゃないかなと思っておりますので、少人数のところの地域から来ている子どもに対するケアというか、そういうのも目を配っていただければいいのではないかなと思っております。あと、通学路の問題につきましても校長先生はよく認識していただいておりますので、課題はこれからいい方向に行くようにということで検討をいただいておりますので、恐らく、みなさんが心を1つにして、いい方向に向けて動いていただいているというふうに実感をいたしまして帰ってまいりましたので、今後ともその融合ですね。地域、子どもたち、それから先生がたが融合してコミュニケーションを十分に取っていただいて、課題に向けて解決の方法を模索していただきたいと思います。長くなりましたが以上でございます。

市長 どうもありがとうございました。庄山さん。

庄山委員 昨日、学校が始まって初めて見せていただきました。すでに、先ほども説明を事務局のほうからしていただきましたけれども、人の多さと先生の多さと、それから教室が迷路のような立派な校舎に本当に改めて驚きました。途中で職員室を覗かせていただきましたけど、あれだけ教室に先生たちが行ってい

でも職員室にもきちんと待機をされてみえるということで、本当に加配によって頑張っていたんだなというようなことで、これは保護者の方にも十分理解していただけるのではないかなというふうに思いました。美里外の地域の噂では、例えば白山町であるとか久居であるとか津のこちらのほうで噂を聞きますと、すごく良い校舎で、すごく良い教育をされておるというようなことで、うらやましがっているような噂が流れておりまして、先生たちが一生懸命やっていたらしゃることが地域にそういうふうには流れたのかな、というふうに思っています。昨日、校長先生から様々な説明を聞かせていただきまして、校長先生は校長先生なりに自分のきちとした小中一貫教育の姿勢というようなものも持っていたらしゃいますし、それから、職員会議でも先生たちの様々な意見を十分に取入れて運営をされておりました。これは先生たちの張り合いにもなるし、新しい学校を作っていくという、校長先生をはじめ先生方の意識が一致していて、同じ方向に向いていくんだなというようなことで、それを確認させていただいたことも喜びの1つでございます。それから、田中議長さんが何度も閉校式でおっしゃいましたけれども、平成26年に津市が、この小中一貫教育をするということになったのでこの話が進んだということは何度もおっしゃいましたけれども、学力の向上、それから学校生活の充実、つまり生徒指導の充実ですね。中1ギャップとかそういうようなことがないような学校にしていきたい。それから、豊かな人間性、小学校1年生の段階から9年生までの子どもたちがいっしょになって豊かな心、今、滝澤委員がしっかり言っていただきましたけれども、豊かな人間性を育てていくんだということで、そういうこの3つの柱で小中一貫教育を始めたわけですがけれども、そのスタートとしてきちっと位置づいたなというようなことを思っています。学力も必ずや伸びてくるのではないかと、本当に期待したいと思っております。昨日見せていただきましても子どもたちも非常に落ち着いておりましたし、先生たちも頑張ろうというような姿勢があちこちに見えまして、非常にうれしく見学をさせていただきました。ただ、やはり開校ということで多少、先生たちが疲れているのではないかな、それから子どもたちもちょっと活気がないような、たくさんのお客さんが見えましたので、どうしても恥ずかしいのでそうだったのかなとは思いますが、小学校の1年生、2年生の授業にしては、もっとおしゃべりしたりニコニコ笑ったりするのですけれども、そういうのがないなと思いました。昨日、上島委員がちょっと言われたんですけれども、歩くのがなくなったということで、徒歩通学をしなくなった子どもたちが、徒歩通学っていうのはこれは私の持論ですけど、小学生の基本的な運動能力をつけるという意味では、本当にとっても大切なものだと思っております。それがなくなったということで、それに代わるような対策をやはり考えてやらなければいけないかなと思いました。以上でございます。

市長 ありがとうございます。いろいろとご意見が出ましたので教育長にいくつかのポイントを踏まえてご発言をお願いしたいんですが、1つは義務教育学校ならではのいろいろな、特別な環境っていうのが出ていますよね。教育上どうなのかって、滝澤委員が言われた、後期課程のほうで小さい子と接するのはいいんですけども、それが本当に、中学校だったらこの子たちの居場所はあるんだろうかというような心配だとか、それから、庄山委員が今おっしゃったような、とにかく注目されているので先生も生徒児童も疲れているんじゃないか、あるいは緊張があるのではないかというようなこと、それから、皆さんがおっしゃった加配の持続可能性、こんなようなことがいろいろと出ているようですね。それから、やはり統合校っていうことで、小さいところから来た子どもへの配慮みたいなものを、これは芸濃小学校で経験があるわけなんですけど、そんなところを含めてどうぞご発言をお願いします。

教育長 まず、後期、前期の子どもたちの関係っていうところで、滝澤委員もおっしゃいましたけど、自分も東橋内中学校から教育委員会に来ましたけども、そのときにもう、すでにあそこは敬和小から東橋内中学校、それから幼稚園、保育園も入れた合同行事とか、本当に一貫のようなことをやっています、確かに東橋内中学校、非常に今は落ち着いた状態になっていますが、その大きな要因というのはそういうふうな、今おっしゃったような、中学生のなかで何か問題行動を抱えていてなかなか学校では認められない、先生にも毎度怒られている子が褒めてもらう場としてはやはり、なかなか中学校では難しいと。それで、小学校の子とかを行事の時にお世話をするとか、そういったときに、明らかに小学校の子からすると大きなお兄ちゃんは頼りになる人ですので、そういったことでごく肯定感というのがあって、これは自分が本当に実際感じたところですので、そういうメリットは確かにあると思います。反面、これは滝澤委員がおっしゃったように、そうしたら中学生の中でなかなか上手いことコミュニケーションが取れないので、小学生のところへ癒しを求めに来ているとかこういうことは確かにあると思いますけども、これもおっしゃったように、それもまだできると、とらえていけばその辺のバランス感覚、先生たちがそういう課題もありながら取り組んでいければ、1つのメリットとして考えていけばいいのかなと、自分のほうは思います。それから、始まったばかりで疲れているっていうお話もありますけど、確かにそれはおっしゃるとおりかなということは感じます。非常に緊張感も持ってみえますし、先生方もやはり当然新しい学校ですね、県下初の。すごくやる気を持っていただいている。これは自分も開校式に行ったときに、先生方の顔をずっと見ていたんですけども、すごく顔にやる気が表れていたという

のは感じました。さっきも申し上げましたけど、なかなか最初、ちょっと落ち着かない状態があったって聞いたんですけど、それが、自分の経験上、この1ヶ月の間によくあそこまで、我々が行っていたとはいえ非常に落ち着いた状態を作ったというのは恐らく、これは校長が全部教えるわけにはいきませんので、校長のそういうビジョンのもと、教職員が団結して、一体となって同じ方向を向いてやったから。確かに加配が多いというのはその大きな要因ではありますが、人がいれば必ず効果が上がると言われればそうではありませんので、そういう実質的な校長のリーダーシップが非常にあったのかなということを感じました。それから、その加配の持続性につきましては、これはちょっと今からまだいろいろと県の教育委員会でも言わないといけないこともありますし、それは今後の課題というようなことでやっていく必要があるのかなということは考えております。あと、小さい学校から来た子の配慮につきましては、これはいわゆる統合じゃなくても、普通の中学校でもかなり小学校で人数が多いところ、少ないところというのはありますので、そういうところは今までのノウハウのなかで十分認識してやってきたのではないかな、ということは思います。自分は一身田中学校でしたけれども、白塚とか一身田小学校から来る子は、どんといました。多分、栗真とかもともと少なかったですので、そういったことは今までも十分やってみえたのかなと思いますので、十分配慮してやっていただけるかなということは考えております。

市長 そうですね。今、ただ小学校の子はもっと小さいので、中学校とは違うのでね。やはり芸濃小学校とか一志西小学校のときの、小さい学校から来た子どもたちはどう上手くインクルードしたかというところをよくノウハウを伝えてほしいなど、こんなふうに思いますね。そのうえで、上島委員が最初におっしゃった新しい義務教育学校としての文化をどう作っていくかっていうところは、やっぱり私が非常に注目もし、かつ先生方の意欲が空回りしないように、これは教育委員会として上手く導いていっていただければなというふうに思います。私は高い志で目指すものをはっきりとさせて、そこに向かって学校、教職員が一丸となってやっていく。それに子どもたちが何となく雰囲気の中で生き生きとそれに乗っかっているような、そんな状態をぜひ作ってほしいなというふうに思っております。その手助けの1つになるかなというものは、もうちょっと経ったらどんどん発信をしたらどうかなと。広報でこんなふうにみさとの丘学園はやっていますよ、みたいな話を津市に広くお知らせをしたりっていうようなことをすると、またカメラがまわると余計に緊張するかもしれないけど、そういうこともとても大事だなというふうに思います。やはり私も今まで義務教育学校だったり、その制度ができる前に小中一貫校、よそのところで先立つ

てスタートしているところを見た経験で言うと、この学校はどういうところを目指すのか、どんな学校にしていきたいのか、子どもたちをどういうふうに育てていきたいのかというのがとてもはっきりしている学校ほど、やはりいい学校になっているような気がするので、その辺、みさとの丘学園が、全部の先生が「自分たちはこんな学校を目指しているんです」と、あるいは「こんなふうに子どもたちを教育してるんです」ということを、言葉が違ってても言うてることの内容は「ふーん、なるほど」と、みんなが同じ筋で話をしているな、ぶれてないな、そんなふうになるといいかなというふうに私は思っております。どうぞ、何かもう一言ある方はどうですか。よろしいですか。では一応、今日のところはみさとの丘学園はこの程度にさせていただいて、放課後児童クラブの話に入りたいと思います。まず、事務局からご説明してくださいませか。

青少年担当副参事 失礼いたします。青少年担当副参事の小島でございます。冒頭、私のほうから放課後児童クラブの現状と課題についてご説明をさせていただきます。お手元の資料のなかで、まずは現状のほうは、このカラー刷りの市長コラムを使わせていただきます。説明をさせていただきたいと思っております。お手元の資料のほうの市長コラムのほう、ご覧になっていただきたいと思います。これは5月1日の広報津に掲載されました市長コラムですけれども、津市の学童保育事情について取り上げていただいております。左側の中段ぐらいにあります。現在、津市の学童保育、放課後児童クラブは公設民営が45、民設民営が10、合わせて55のクラブがございます。ずいぶん数が増えてきたんですけれども、核家族化ですね。その進行とか共働き家庭、一人親家庭の増加に伴って急激にニーズが高まっているということになっております。そのような中、左側の下のほうですけれども、平成24年8月、津市学童保育連絡協議会、ここと市長、教育長、担当職員、私どもの懇談の場が生まれまして、懇談会は毎年開催されるようになっております。右側の上段のほうですけれども、市長からクラブに積極的に出向き、クラブが抱える課題を把握するよう努めよう、とお声がけいただきましたので、担当としてもすべてのクラブを回って来たところです。生の声を聞かせていただくということをやってまいりました。その結果、右側の上のほうですけれども、本年3月20日、すぐりんクラブ専用施設の竣工式。それから、右側、真ん中ですけれども観音寺どんぐり会、これは三重大学教育学部附属小学校の敷地内に新築するということになりました。続きまして、カラー刷りの「児童の放課後をサポートします放課後児童クラブ、学童保育所」。こちらのほうをご覧ください。こちらの5月1日の広報津に掲載させていただいた記事なんですけれども、こういうふうに公設民営が45、民設民営が10ということで55なんですけれども、こちらの真ん中に、運営団体一覧で47までになってますけれども、2

つに分割しているクラブがあったりしますのでそれらを合計すると55になる、というふうな、これぐらいの数になっております。その右下にはマップが載ってございまして、こういうふうな位置に放課後児童クラブが設立されているということになっております。さて、もう1枚カラー刷りがございましてこちらのほうもご覧いただけますか。グラフが載ってございまして。グラフの右の上のほうをご覧いただけますと、こういうふうな右肩上がりという感じで児童数が増えてございまして。そして、下段の左の下の方はこれまで合併後、こういう推移、流れで施設整備をおこなってきたということになっております。現状はそんなようなことなんです、今度は白黒の、私どもが用意させていただいたペーパーのほうをご覧いただきたいと思っております。津市放課後児童クラブの現状と課題についてのところですが、その、今、1と2が終わりましたので3にいきたいと思っております。「クラブ訪問から見てきた諸課題」というところを見ていただきたいと思っております。見えてきた課題としましては大きくは2つございまして、そのうちの1つが運営における課題というふうなことになっております。その運営における課題は大きく3つにわかれています、まず①ですけれども運営にかかる保護者の負担軽減というのがございまして。②で放課後児童支援員等の確保であります。③で放課後児童支援員等の資質向上というふうなことが課題として伺っております。裏のページに行ってくださいまして、大きな2つめの課題としましては施設における課題ということで、施設の改修整備、それから②のほうで施設の修繕と、これぐらいの課題をずっと聞かせていただきました。これに對しましては私ども、どのように対応していくのかというところを4番に書かせていただきましたが、まず、運営委員会に対してはクラブの運営マニュアルを作成しようじゃないか、というふうなことを考えております。これは最近、放課後児童クラブの保護者の役員さんは1年交代とか2年交代というふうなことで、本当に人が変わると。そのなかで、4月になったらいったい何をすればいいのと、源泉徴収とかどうすればいいのとかいろんなことがございまして。12月にはどんなことをすればいいの、1年間どう流せばいいのかを知りたいというふうなご要望ですね。ですので、そういうふうな声にこたえていけるようなマニュアルを作りたいなというふうなことを思っております。それから、真ん中の放課後児童支援員等の確保ということですが、これもなかなか、現在は広報津やホームページを活用してはおりますけれども、合わせて校長会にも積極的に協力をお願いしたいかな、ご協力を呼びかけていくことが大切だなというふうに思っております。それから、放課後児童支援員等の資質向上。こちらは特別支援に関わるお子さんにいったいどう対応するか。これがかなり大きいので私どもも行政研修というのをやっておりますが、そこでちょっと厚めにそこを入れていこうと考えています。それから、(2)の施設における課題のところですが、まず施

設の修繕のほうはいろいろ、トイレの改修とか雨漏りとか扉とか出てきます。それらについてはクラブと十分協議しながら進めていきたいと思っております。そして、施設の改修整備につきましては津市公共施設等総合管理計画にもとづいて、その整備指針によって計画的に改修していきたいと考えています。なお、未設置校区への設置というところですが、これにつきましては放課後児童クラブの設置、これを基本としつつ地域の状況やニーズに合わせて、放課後子ども教室についても適切に対応していきたいなというふうに考えております。以上でございます。

市長 ありがとうございます。では、ご意見いただきますがここで私のコラムから説明して下さったので、順番が逆ですが私から先に発言させていただきます。このすぐりんクラブの事例は、これから立ち上げをしようという方々にとって本当に3年間大変だったと思うのですが、こういう形に実際、姿ができたということは、あとから続く人たちにも本当に1つのモデルになるだろうという感じがしています。ただ、すぐりんクラブだけでなく、立ち上げのところは本当にご苦労が多いですね。しかし、それぞれ少しずつ違うご苦労をなさって立ち上がるのですが、こうやって立ち上げていただくことによって、一旦できたら本当にきちんと上手く運営していったら、あとからの人たちが上手く運営していただいているので、ある種の地域の資源みたいになっているのは間違いないというふうに思います。この附属の事例は、国立大学法人と、自治体と、保護者自体の運営組織の三者協調という点で全国で初めてのものになりますので、これは本当によくやった、あっぱれっていうようなものだと思うんです。ここまで津市の放課後児童クラブができるようになったのは、私は2つあると思うんです。1つは足で稼いだというか、今までは教育委員会にものを言いに行き、そして10言ったら1つくらい何かしてもらえるかどうかみたいな、なかなか難しいよねという中でやっていたのが、白山中の校長になられた西村先生がよく足を運んで、青少年センターから来てくれるようになったことで、ひょっとしたらこれは10のうちまだ2つか3つなのかもしれませんが、そうやって来てくれるようになったということです。ずっとこうやって見てくれているんだと、我々ががんばろうとか、もうちょっと言えば何回か言い続けたら本当にしてくれるかもしれない、みたいな期待感が出てきて、放課後児童クラブの関係者のムードが変わってきたというのが、1つだと思います。もう1つはやっぱり、教育委員会が所管をしていることによるメリットが大きいというふうに思いますね。この三重大なんかも、教育委員会じゃなかったら、津市の福祉部局がやっていたらここまではできなかっただろうな、教育同士だからやっぱり信頼関係をもとに話ができたんじゃないかなと思います。そういう意味でこの今の形を是非、さ

らに続けていっていただければ、きっと津市の学童保育は本当にきらりと光るものに、かなりなってきたと思いますが、なるというふうに思います。ただ、それが一朝一夕でなされたものではないと、本当にみんなが努力してここまで持ってきたということをぜひ確認しておきたいんですけども、来られたばかりの小島先生からすると、例えば平成24年8月を機に、ここからできるようになりましたって、さらっと言われましたが、この平成24年の8月というのは、正直に言って彼らからの悲鳴が僕のところまで届いて、とにかく来いと言われて行ったのが最初ですからね。逆に言ったら、そこまではものすごく運営する人たちは困っていたわけですよ。無理やりぐらゐの感じで私はみどりっ子へ連れていかれたんですが、そのときに中野教育長は一緒に来てくれた。中野さんも何となく感じていたのじゃないかな、何とかしないといけないっていうふうな。というのがスタートですから、そう簡単にここまで出来たっていうものではないということで、今までの担当者で施設の上司である責任者が苦勞してきてここまで作ってきた状態でありますから、それをさらに進められるように、ぜひ頑張ってくださいと思います。ちょっと気合を入れてしゃべりすぎました。

滝澤委員 共働きとか一人親とか、どうしても働かないといけない保護者がたくさん増えてくるなかで、放課後児童クラブというのはこの時代のなかでは本当に必須のものだと思います。ただそれまでは多分、保育園で子供を預けていた保護者が小学校になるとその代わりに児童クラブに預けないといけない。ただ体制が、保育園の体制と、行政的なものがまったく違います。それで、例えば保護者の負担って基本的に保護者が運営しているのがベースですから、保護者がみずからいろんなことを勉強したり調整したり、協議したりして決めて実行していかないといけないということは、保護者にとっては非常に負担です。急に入学したとたんにならぬので、このへんの支援と言いますか、これは行政のほうで何か考えてマニュアル作りとかやっていたらいいんですが、まだまだ十分ではないですし、保護者にとって事務局の機能が継続していないというのがあります。非常に負担感が強い部分ではないかなと思います。どこかでマニュアルを作るだけというよりも、公的な事務局機能というか支援、私の理想は小学校低学年のうちには保育園の延長のようなかたちで放課後児童クラブができないかっていうふうに思っているんですけど、特にニーズの強いのが1年生、それから2年生あたりの低学年ですね。このへんがもうちょっと行政がしっかり体制を整えるというか、支援するというかたちが取れないのかなと、保育園の延長のようなかたちでできないのかなと思っています。3年生以上、高学年になるともう自分でやりたいこともできてくるし、塾に行ったりいろんなことが自分でもできると思います。だから、小学校低学年に行政がもうちょっと関与した

ようなかたちでの組織づくりっていうのができないかなというのは、私の希望でございます。

市長 おっしゃるとおりで、運営支援がやはり非常にポイントになると思いますね。マニュアル作りにとどまらずにというのはそのとおりだと思いますし、例えばその次に書いた支援員の確保なんかも、結局よく聞く話がそれぞれパラパラと、うちも支援員募集してますよと書いてあるだけでは全然集まらないと。ここなんかまさに教育委員会が一本で支援員の募集をお世話してあげたりっていうことができないかなというふうに思うんですけどね。なかなか彼らも、例えば10のクラブが今求めているとするじゃないですか。1つ1つのクラブが募集していてもなかなか集まらない感じがあります。例えば、常に青少年センターに行ったら今、募集中の支援員の面接が受けられ、どこへ配属されるかは、それはまたマッチングの問題とかぐらいのかたちでできないかなというふうに私なんかは思っているんですけどね。

上島委員 先に質問させてください。全国的に見ても三重県はよろしいですけども、福祉のほうがこの学童を担当しているところと、教育委員会とはどのぐらいの割合ですか。

青少年担当副参事 割合はきちんと調べたことがございませんが、近隣で聞きますと教育委員会ではなく福祉部局というのがほとんど。

市長 三重県ではいなべ市と津市になります。

上島委員 僕は教育委員会が児童クラブを持っているということの意義というのは、それを生かさなければいけないということになると思います。津市の学力向上の1つを担っていると思います。というのは、ある程度の教育の専門性を入れながら、そんな勉強を押し込むわけではないですけども、学習に取り組む姿勢とかこれは、先ほどの意見と反対になりますが、保育園の延長じゃなくてやはり学習に対する取組みの1つを、宿題はここでずっとやっていこうじゃないかとか、そういったものをきちんとやっていくのは、教育委員会が持つ児童クラブの有利なところではないかなと思います。これは予算的に大変ですけども、例えば、今この経営についてももっときちんとしたものを持とうと思うと、例えば、1つずつは要らないですけど、中学校区についてはいくつかまとめてもよろしいですけどもやはり管理する者、校長のOBとかそういった者が、把握していつて管理していけるような者が必要ではないかなと。それから、さっきの事務

の話、経理の話がありました。これも学校に、上手くいったら退職された事務の方がいます。こういった方々をそれぞれに1人じゃなくても、いくつかのところに1人いて回ればいい話なので、そういった人を手助けする。指導員も逆に言ったらある程度、教員のOBとかわかっている者を入れていくとかですね。全てそうしなくてもいいですけどもある程度入れていって、専門性を入れていくことも大事ではないかなということを感じます。予算的には厳しいかもしれませんが、そういうかたちを作っていく。それが、運営マニュアルを作ってもそれを上手く運営する者が、きちんとやっていく者が必要ではないかと。やはり経営者も経営するマネジメントが大事だと思うんですよ。経営者がきちっとしたものを持っていたら支援員も生きがいを持っていけると思います。経営していく者がいい加減なことを思っていたらそこについていく部下も魅力を感じなくなってしまうと、やはり支援員は子どもをきちんと対応することに魅力を感じる仕事である、というようなものを作っていく必要もあるのではないかと思います。そういう意味ではもうちょっとテコ入れしてやるともっといいのかもしれないですね。

市長 公設民営なので民営だからそこは入って行ってはいけないんだというふうに、簡単にドアを閉めてしまおうとなかなか難しいので、今ちょっとヒントみたいなことをおっしゃっていただいたので、いくつかのクラブに入っていく管理運営指導とか事務補助、事務支援みたいな、そういう人を例えば教育事務所とか教育委員会本体がOBを採用して、学童担当みたいにしてというのをやれるかもしれないですね。

庄山委員 放課後児童クラブと学校とがよく似たような、放課後の学校のようなものですが、例えば、夏休みの朝の7時半から夕方6時まで1日預かるんですけれども、学校とはまったく違います。学校というのは45分の授業があって10分休憩して、子供たちは授業時間と休憩時間とリセットしながらずっと学校生活をやっていくわけです。ところが、学童の場合は例えば、長期休業を見ても勉強を30分して30分読書、午前中と午後とするのですが、あとはのべつまくなしに遊ぶんですよ。ですから支援員は本当に大変です。学校はそういう意味で時間できちんとできるので、そういう意味で子供たちもきちっと切り替えることができ、これはやっぱり学校はいいなって。私の関係している学童はその学校の退職した先生がたくさん来てくださっているんで、そういう話をよくするんです。だから、支援員の方々は途中で大変だなと思って辞められる方があるかわかりません。それから、勤務時間が中途半端なので、そのほうがいい方もあるんですけど、午前中は何もなくて午後から夜の夕方6時、7時、遅い

と8時ごろまでやってますので、勤務が普通の勤務と少し違うっていう。しかもその給料体系がそれで生活をしていくのがやや難しい。私たちのような退職した者が二度の勤めでお手伝いをするのは、それは別に何も問題ないんですけど、若い先生たちがそれでやっていくっていうのはちょっと難しいかなと思います。そのところが非常に大きな問題だなというふうに思っています。津市の補助金をいただいておりますが、額は年々上がっています。

市長 これは国の制度が変わったんですね。

庄山委員 国の制度が変わったんですね。それから、一人親家庭にも補助金がつきましたし、それから送迎というようなところもだんだん、いろいろなところでカバーしてもらえるようになったのがございまして、よくなってきました。そのなかで事務は保護者が日曜日ごとにやっていたわけです。毎日曜日にその仕事をずっと、会長、副会長になると毎週出てきてその仕事をずっとやっていた。それを事務の方にさせていただくと、運営している運営委員長はずいぶん楽になります。ですから、月に15時間か20時間ですけどそんなのでも手伝ってあげるという方があれば、うちはそういう方を見つけたんですけどもそういう方に事務をしていただくと、随分楽です。役員のなり手もわりと手をあげてやってくれる。ですから、それぞれの学童保育は全然給料体系も違うし、すべて、いろんなことが違うので、やはりそれぞれで自分のところはどのようなことができるかっていうのを、青少年センターにご相談しながら上手く見えてくるようなものを手探りでというか、見つけていかなければいけないんだらうなっていうふうに思います。

市長 それぞれ特色がありますからね。ありがとうございます。

倉田教育長 よろしいでしょうか。

市長 教育長、どうぞ。

倉田教育長 小島所長も新しく来たように自分も立場が変わりましたが、今一番、担当と自分とよく話をしているのは本当に、市長もよくご存知の課題がありますので1つ1つやっていきたい。先ほどお話が出ています事務的なことにつきましては、学童保育の連絡協議会のほうでも一定そういう援助をしていただけると。

青少年担当副参事 会計事務について、研修というのを連絡協議会のほうでも設定をしておられるという、そういうところはあります。

倉田教育長 そのように聞いているんですが、今おっしゃっていただいたようなことを含めて検討したい、というふうに思います。これにつきましては何らかできることにつきまして。あと、盛んに出ております運営者の側に立つっていうのは、これは本当にそのとおりで昨日もちょうど、学童の協議会の総会で市長がおっしゃっていたみたいに、25年表彰のときに、25年度という言葉はありましたけど自分も全くそのとおりだなって。さっきもおっしゃいましたけど、あの子どもらは遊びをずっとやらせていくっていうのは大変だったし、まったくそのとおりだと思います。そういった気持ちにも十分に寄り添いながら今後も引き続き、西村所長、しっかりやってもらいましたのでそのことを形でしっかり、教育が声を聞きながらやっていきたいなというふうに思います。

市長 本当にこれは、たくさんやるべきことはあるんですけども、それでもやれば必ずプラスになるというか、前に進む話になってぜひみなさんにはお願いしたいというふうに思います。それでは、時間になりましたので以上で審議、協議・調整事項は終わります。その他に入りますが何かございますか。よろしいですか。特にないようでございますのでお返しをいたします。

教育次長 それでは、これをもちまして本日の事項はすべて終了いたしました。前葉市長から閉会のごあいさつをお願いします。

市長 では、これをもちまして第22回津市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。